

結核汚染地区住民の結核に関する意識およびヘルスプロモーション行動について

福田 裕子、松村三千子、荒木 亜紀
神徳 規子、生島 祥江、玉村 由紀
向山 文子、藤原 正恵

1、はじめに

わが国において、大正から昭和にかけて結核は国民病と恐れられその死亡率はトップを占めていたが、第2次世界大戦後、生活の向上や結核衛生対策の徹底、治療薬の開発などによって暫時減少傾向を示していた。しかし、近年結核は増加傾向にあり、兵庫県は大阪府について結核発病率ワースト2である。とくに本学のある長田区は神戸市内では発病率ワースト1である。そこで、本研究では、地域住民の結核の意識調査を実施し実態を明らかにすることを目的として調査研究を実施した。

2、用語の定義

「ヘルスプロモーション」をここでは「個人の保健行動」を意味することとする。

3、研究方法

本研究前に、結核に関する意識およびそのイメージ、ヘルスプロモーション行動を把握する内容で質問項目を作成し、研究者間で内容の妥当性を検討しプレテストを実施した。

本研究では、兵庫県神戸市内に在住の40歳以上の男女232名を対象に質問用紙を用い調査をおこなった。なお、倫理的配慮として事前に紙面にて研究目的、自由意志の参加について説明をおこない研究への参加の同意を得た。

分析は、SPSSを使用しカイ二乗検定をおこない有意水準を0.05とした。

4、結果と考察

調査の結果、いずれの項目に関しても年代、性別で有意差を認めなかった。

結核のイメージについては、大半の人が「感染する病気」「抵抗力が低下すると発病する」と答えている。結核の症状については、大半の人が主要症状である「咳」「微熱」「血痰」「痰」をあげていた。結核予防については、大半の人が「栄養のバランス」「3食きちんと食事をとる」「十分な睡眠」「健康診断の受診」をあげていた。しかし、定期的な健康診断の受診頻度はこの結果には相関しなかった。

以上の結果から、地域住民の結核に関する意識は明らかになった。しかし、本調査結果のみで「正しい知識を有している」とは判断できず、健康に対する認識があることはわかったが、正しい知識を有しているかどうかについて今回のアンケートで明らかにできなかったものもあり、今後さらなる実態の把握が必要であるといえる。また、定期的な健康診断の受診が重要と意識しているにもかかわらず実際の受診行動につながらないことに関しては、健康診断が疾病の早期発見に重要であることの動機づけや行政による積極的な広報活動の必要性が示唆された。近年高齢者の結核が増加し、また結核の発病リスク要因である糖尿病の予備軍が増加傾向にある。したがって成人期から正しい知識をもち生活習慣病の予防と早期発見、早期治療の行動がとれるような健康教育が重要であると考えられる。